

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 共友会	代表者	岩尾 貢	法人・ 事業所 の特徴	住み慣れた地域で暮らし続けることを大切に「ケアの流れを変える支援」「人生の最後まで寄り添う支援」「共生型サービスの実施」を行っている。 生きがいの持てる活動づくりとして「就労等の日中活動支援」「若年性認知症の方への支援」「高齢障害者支援」を実施している。 相談支援の拠点づくりとして「地域の方が気軽に立ち寄れる場」「誰もが相談できる場」を作っている。
事業所名	小規模多機能ホーム やたの	管理者	佐野 正人		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	4	1	2	1	0	4	0	13人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>家族が意見や要望が伝えやすい関係及び連携を深めるために、家族と交流できる機会を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族を交えてのカンファレンスの開催 ・運営推進会議に家族がより多く参加していただけるため工夫。 ・家族と職員及び家族同士が交流できる企画を検討する。企画によって地域の方も交えて開催できないかを検討する。 	<p>・家族を交えてのカンファレンスについては出来ている方、出来ていない方がいる。出来ている方は継続的に行えている。その中で心配なことや要望を確認できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は令和3年10月時点で書面での開催となっている。 ・家族や地域の方と交流につながる企画については、スタッフ間で案を出し合ったが、それ以降、検討する機会が持っていない。企画案として定期的開催できる企画を考えているが、地域の方や家族の意見を聞くまでの機会を持っていない。 	<p>・「～したい」ことを支援する項目の自己評価が低い。利用者の目標を明確にできると良いのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちや意見を表現しにくい方を理解できる方法を考える。聞き取る工夫や家族との連携が必要ではないか。 ・反対に家族が聞けないことを職員がうまく聞き取ってくれる様子もあり、助かっている状況もある。 ・職員が家族の話聞いてくれている。 ・「あまりできていない」「出来ていない」という評価について「なぜ出来ていないのか」を考えないと具体的な対策が出ないのではないか。 ・地域の連絡会などの参加が出来ていないという評価であったが、今後、参加案内の声がかかるように、高齢者総合相談センター等との関係作りが必要ではないか。 	<p>①家族が意見や要望が伝えやすい関係及び連携を深めるために、家族と交流できる機会を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族を交えてのカンファレンスの開催 ・家族と職員及び家族同士が交流できる企画を検討する。企画によって地域の方も交えて開催できないかを検討する。 <p>②本人の気持ちや意見を確認する機会を作り、ライフサポートプランの目標に反映させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人を交えてのカンファレンスの開催 ・プラン変更、作成前に時間を持ち、本人の意向や「～したい」ことを毎回、確認する。 <p>③圏域の高齢者総合相談センターとの関係を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回の通信を持参する。 ・持参した時に情報交換を行う ・地域ケア会議等への参加

<p>B. 事業所の しつらえ・環境</p>	<p>カフェ風の造りを利用して、地域の方など、誰でも気軽に立ち寄りたいと感じる環境づくり、雰囲気づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外観や室内のしつらえの見直しとコンセプトの確立、それに応じたしつらえ、環境づくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しつらえや雰囲気作りは積極的に取り組めていない。玄関周りや事業所周り、テラスが整理できておらず、人が立ち寄りやすい雰囲気となっていない。 ・スタッフ間でどのようなしつらえにしていけるのか、整理方法等の話し合いが行えておらず、今後、地域の方の関心が得られやすい工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの時期もありホームに入ること自体がなく、ホームの取り組みも含めて分からないのが現状。 ・ホームに立ち寄りやすい雰囲気が良いのか、悪いのかがある。不審者のこともあるので。そのためにも日頃から地域の方の顔が分かる関係づくりが大切ではないか。 ・外観が喫茶店風になっていたり、テラスがあることを活用できるとよいのではないか。 ・テーブルがそれぞれ置いてあり、喫茶店らしい雰囲気がある。 ・家族として最初来た時にオープンで明るい雰囲気に驚きました。施設ぼくなく感じました。 ・以前は自動販売機を置いて、地域の方が買いに来て、テラスで飲まれている様子があったが、自動販売機が撤去されてから利用されていた方が立ち寄る様子なくなった。再度、自動販売機を設置することを検討したらどうか。 	<p>地域の方など、誰でも気軽に立ち寄りたいと感じる環境づくり、雰囲気づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ間で話し合を持ち、外観や室内のしつらえの見直しやコンセプトを考え、それに応じたしつらえ、環境づくりを行う。 ・自動販売機等の再設置や天候が良い時に利用者と一緒にテラスで過ごす等、テラスが活用できている状況を作る。 ・玄関周りの整理整頓、季節感が感じられる装飾や花等を飾る。
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>コロナが収束したタイミングで地域の方との関わりが持てるように、地域の方に事業所のこと、取り組んでいることを知ってもらう工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的なお便りの発行やSNSの活用など ・地域とのかかわりにつながる企画の検討 <p>地域の情報が得やすい環境を整えるために、民生委員の方との関係を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回の通信を作成できている。事業所の玄関に置いてあるだけで、関係する場所に配布する、置いてももらうまでの取り組みが出来ていない。SNSの活用までは至っていないが、地域との交流企画を行う場合は法人のホームページ等で伝えていける工夫を行う。 ・民生委員の方との関係については、決まったスタッフであるが、運営推進会議の資料の配布や会議等を通して話をする機会を持っているが、地域の情報を交換するまでの 	<ul style="list-style-type: none"> ・以前のように町内の祭りにホームの人が参加したり、町の人と交流する機会は行事自体がなく、減っている。 ・コロナになる前は知っている人はコーヒーを飲みに来たり、訪問していた人がいたが、コロナになってから来ることが出来なくなり、縁遠くなっている。 ・知らない人は知らないため、分かる工夫があるといいのでは。 ・地域に出向くことも大切だが、ホームの中で行っていること（し 	<p>①地域の方との関わりが持てるように、地域の方に事業所のこと、取り組んでいることを知ってもらう工夫、機会を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に作成している通信を関係ある場所や人に配布する。 ・いきいきサロンに参加されている方に事業所の通信や事業所で行う行事の案内を配布する。 ・法人ホームページを活用し、事業所の活動や取り組みを紹介する。 ・事業所で行っている活動や企画

		<p>状況には至っていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方との交流企画については意見をいただく機会は持っていない。 ・今後、地域の方が困ったことがあったら、気軽に相談できる、受けることができる場所となる取り組みを検討する。 	<p>め縄作りやイベントなどを町内の方に案内して、興味のある地域の方と一緒に等、呼び込む方法を考えてもよいのではないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員との関係については、ホームから情報を伝えてくれたり、気になっている人の様子を伝えてくれる様子があり、民生委員としては助かっています。 	<p>を地域の方に案内し、事業所に来ていただく機会を作る。</p> <p>②地域の方が気軽に相談できる場所となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の方と地域の情報交換を行う。 ・通信等を活用し、相談の案内を行う。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	<p>コロナが収束した後、利用者がスムーズに地域で開催している行事やサロン等に参加できるように、また、コロナ禍において地域との関係性が希薄にならないように、スタッフがサロン等に出向き、関係を作っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所がある地域で開催しているサロンにはコロナの状況を確認しながら、参加できている。利用者によってはその方の地域で開催しているサロンへの参加を支援できている。 ・利用者個々の住む地域で開催される行事やイベントについては、情報が十分に得られておらず、支援できていない事が多い。利用者によっては利用者個々が昔から利用していた美容院などを継続して利用する支援が行っている。 ・本人が活用していた社会資源を知るための工夫や取組みが薄い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの時期で地域に出向く事自体が難しくなっているため、前回の改善計画を次の改善計画として、再度取り組んではどうか。 ・以前、グループホームから自宅に戻る人を支えるための会議に参加したことがあった。 	<p>①事業所がある地域で開催される行事やサロン等に参加し、地域の方との関係を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の買い物などを利用者と一緒に出かける。 ・地域の行事等の情報を得て、参加していく。 <p>②利用者個々の地域で行われている行事に参加できる、社会資源を活用できる支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの軒下マップを作成し、個々の社会資源やその関係を知る。 ・本人の暮らしを考える時に、軒下マップや本人・家族の話から支えてくれる方を見つけ、その方に意見を得る。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<p>運営推進会議が開催できない時期は、資料を送付後に、電話や訪問などで積極的に意見を確認できる環境を整える。運営推進会議の開催が可能になった時は地域の情報や相談を丁寧に確認し、事業所として出来ることを一緒に考えてもらえる関係を作る。</p> <p>また、会議には職員が交代で参加し、地域の方と交流できる、相談できる関係づくりを行う。</p>	<p>運営推進会議はコロナ感染対策として対面での開催を控え、書面での代替えが続いている。参加者との意見交換も積極的に行っている状況までには至ってない。</p> <p>書面を作成する時に活動のイメージがつきやすいように、様子を具体的に記載している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの時期で運営推進会議の開催は出来ていないが、地域の方の事例検討を協力していただけたことがあった。 ・会議の内容を書面で送った時の意見をj確認する機会を積極的に作っていくと良いのではないかな ・前回の改善計画に取り組めていないこともあるため、次回に向けた取組みとしてはどうか。 	<p>①運営推進会議が開催できない時期は、資料を送付後に、電話や訪問などで積極的に意見を確認できる環境を整える。</p> <p>運営推進会議の開催が可能になった時は地域の情報や相談を丁寧に確認し、事業所として出来ることを一緒に考えてもらえる関係を作る。</p> <p>②会議に職員が交代で参加し、地域の方と交流できる、相談できる関係づくりを行う。参加していな</p>

	<p>参加していない職員には、議事録の回覧やミーティングで会議の内容を報告するなど、どのようなことが話し合われたのかが分かるための環境を整える。</p>			<p>い職員には、議事録の回覧やミーティングで会議の内容を報告するなど、どのようなことが話し合われたのかが分かるための環境を整える。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>スタッフの防災意識や災害発生時の対応力を高めることを目的に、消防設備の理解を含めた訓練を定期的に行う。地域の方に事業所のことやどのような利用者が利用されているのかを知っていただくために、地域の方と防災や災害について話し合う機会や訓練に参加してもらう機会を作る。その時に災害が発生した時の事業所の役割について要望や意見をいただく機会を持つ。</p>	<p>訓練については年2回の訓練を実施できている。対応力を高めるための実践的な訓練までは行っていない。地域の方と災害について話し合う機会や訓練に参加してもらう取り組みは、コロナ禍という状況もあり、取り組みに至っていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町内に防災士が何人かいるため、その方と一緒に訓練方法を考えるなど、意見をもらう機会があってもよいのではないか。 ・実際の災害をイメージして、実践的な訓練を行わないと効果的な訓練とならないのではないか。 ・災害が起きた時に町内の協力者が増える様な方法を考えても良いのではないか。実際に応援が得られない場合もあるため、それを意識した避難方法も考える必要があるのではないか。 ・どこに避難するのかという避難場所を明確にし、マニュアルの中に入れていくと良いのではないか。 	<p>①スタッフの防災意識や災害発生時の対応力を高めることを目的に、実際に動ける訓練を定期的に行う。</p> <p>②地域の方に事業所のことやどのような利用者が利用されているのかを知っていただくために、地域の防災士等と防災や災害について話し合う機会や訓練に参加してもらう機会を作る。</p>